

リサイクルしていれば、「循環型社会」でしょうか？

ペットボトルはほとんどペットボトルには戻りません。

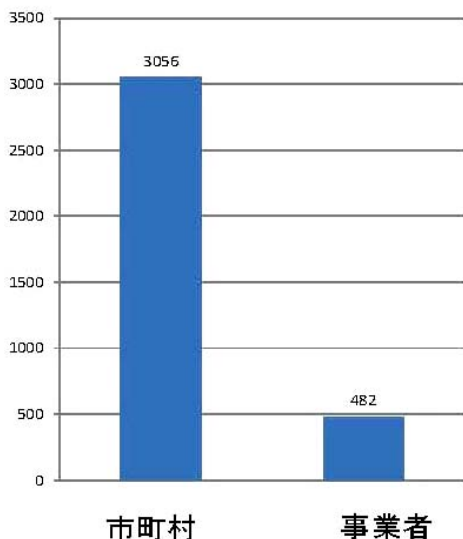
しかも、そのために多額の税金が使われているのをご存知ですか？

さよなら大量リサイクル！

容り法の何が問題か？

本当の循環型社会を求めてみんな集まろう！

リサイクル費用の86%が税金負担だから
リサイクルだけが優先されて、
このままでは、循環型社会が実現しない



市町村の分別収集費用：

3,056億円（平成17年度）

- 分別収集に1,714億円
- 選別・保管に1,342億円

（参考）埋立処分費用は、トン当たり2万円。平成17年度の再商品化量180万トンでは、360億円。

事業者の再商品化費用：

482億円（平成17年度）

参考文献：2007年11月発行「都市清掃」掲載論文、田崎智宏著「ごみ減量・再資源化に係る廃棄物処理費用の現状と課題」

日時 2012年9月8日（土）13時30分～

場所 静岡県教育会館地下C会議室

（静岡市葵区駿府町1-12 Tel：054-252-1011 Fax：054-254-1028 セノバ向き）

特別講師 中井八千代 さん（3R全国ネット）

語り 赤堀ひろこさん（生活クラブ生協顧問）他 県下の仲間達

浜松市、牧之原市、吉田町、島田市、焼津市、富士市、沼津市、御殿場市など静岡県下のゴミ仲間が集結予定！みんなで容り法改正の市民案を勉強しましょう

主催 「ゴミゼロプラン静岡」市民ネットワーク・容器包装の3Rを進める全国ネットワークネット
入場無料 問い合わせ Mail：mirai2@bj.mbn.or.jp

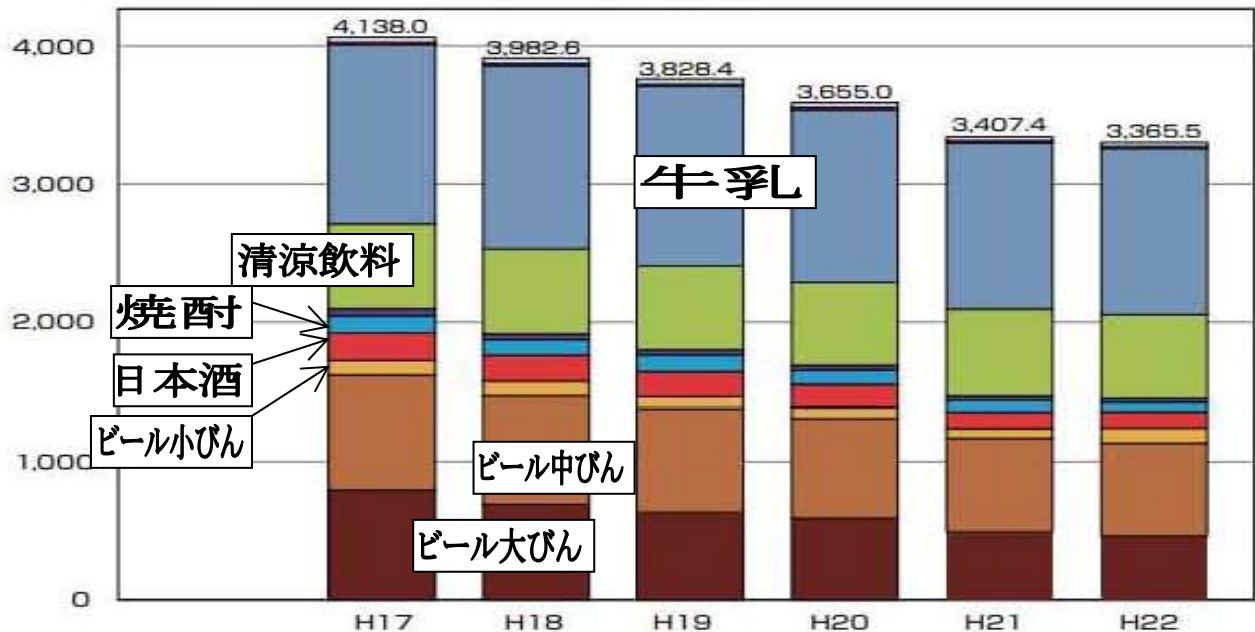
昨年8月、全国署名とともに提出した「容器包装リサイクル制度を見直し、発生抑制と再使用を促進するためのしくみの検討を求める国会請願」が採択され、3R全国ネットワークでは、改正へ向けての市民案作りを行ってきました。今年7月、その第一次案がまとまり、いよいよ、次期改正に向けてのアクションが始まります。

そこで、静岡県でも、全国ネットの市民案を勉強してよりよいものにしていくための集まりをもちます。

リユースびんが絶滅寸前！

(百万本)

リユースびん用途別本数



出典:日本ガラスびんリサイクル促進協議会HPより

「容リ法改正」問題とは何か？ 文責T

「ごみになるモノを作らない、売らない、買わない」ことを通してゴミの焼却、埋立ゼロを目差すことが求められています。しかし、その気持ちがわかっているにもかかわらず、**消費者や事業者は目先の「便利・快適・手軽さ・利益」が優先**してしまっています。

例えば、ペットボトルなどが大量に消費され、リサイクルされているというけれど実際は**相当数が不法投棄**されたり、一般ごみとして燃やされたりしている。そして、リサイクルされても、**ペットボトルに戻るのは、ほんの一部**。

しかもそのリサイクル費用の大半（収集分別費用）は自治体（市町村）が負担している。※自治体の負担は事業者の6倍以上というデータもあります

これでは、ペットボトルに税金を投入して、大量消費しているのと同じ。一方現実には、リターナルビン（繰り返し洗って使うビン）は、減少の一途。

リサイクル費用も事業者が完全負担をして、それが価格に転嫁されることを通して消費者がその費用を支払う（リサイクル費用の内部化）という仕組みやデポジット（容器を返せば、お金がかえってくる）などを併用して、**消費者にも、事業者にも環境に優しい商品を選ぶインセンティブ**（動機付け）が必要になります。

そのためにも、**消費者・事業者・自治体の役割分担の変更が求められています**。それが容リ法改正の問題です。